

CSR REPORT 2017

東洋アルミグループ
CSR報告書



未来を創る

行動方針に掲げた「未来を創る、私が創る。」を具体化し持続可能な社会の実現に貢献すること、それが東洋アルミグループのCSRです。

2016年に組織再編を行い、CSR活動も未来へ続く第一歩を踏み出そうとしています。

私たちの強みや技術を活かしたCSR活動を展開することで、効果的で継続的な活動が可能になります。持続可能な社会の実現に向けて、経営とCSRの一体化を図り、着実にCSR活動を推進していきます。

経営理念

私たち東洋アルミグループは、

1. 堅実な事業経営を通じて、常にお客様に感動を与え、社会に有用で、且つ環境にやさしい製品およびサービスの提供を目指します。
2. 絶えざる技術革新に努め、高い技術力を活かした製品の提供に努めます。
3. 生き生きとした自由闊達な企業風土を育み、集团の天才を目指します。
4. 社会的責任を自覚し、品格のある企業として社会貢献します。

行動方針

「未来を創る、私が創る。」

1. 一流を目指そう。
2. 知恵くらべに勝とう。
3. コミュニケーションを深めよう。
4. 失敗力を身につけよう。
5. 感性をもっと働かそう。
6. アライアンスの構築を図ろう。
7. 安全への意識をもっと高めよう。

CSR基本方針

東洋アルミグループは、健全な事業活動を維持向上できる企業風土の構築を目指します。そのために、社会的規範や企業倫理に適合した企業活動の展開、安心してお使い頂ける製品品質の提供、地球環境と調和した経営活動の推進、および労働安全衛生を職場の最優先事項とした活動を通じて社会的責任を果たす経営を展開して参ります。

目次

経営理念・行動方針・CSR基本方針	1
目次・編集方針	2

特集

1 食・健康の未来を創る	3
2 地球環境の未来を創る	5
3 社会・インフラの未来を創る	7

トップメッセージ

会長対談	9
社長対談	11

東洋アルミグループのサステナブル経営

未来に向けたビジョンと戦略	13
マネジメント	
SDG Compassに基づいたCSRマネジメント	14
特定したCSR重要課題（マテリアリティ）	16

CSR 5つの重要課題

CSR 重要課題 1 未来を創るイノベーション	17
CSR 重要課題 2 環境保全	19
CSR 重要課題 3 多様な人財の活躍	21
CSR 重要課題 4 品質と安全	23
CSR 重要課題 5 ステークホルダーとの協働	25

サステナブル経営を支える基盤

コーポレート・ガバナンス	27
--------------	----

CSR活動アクションプラン

第三者意見	29
-------	----

企業プロフィール

事業概要	30
グローバルネットワーク	30

編集方針

■はじめに

本報告書は、持続可能な社会を目指す私たちのCSRの考え方や課題、目指す方向性および取組みの進捗を、ステークホルダーの皆さまにご理解いただくことを目的に発行しました。

従来はISO26000の中核主題に沿った形で報告していましたが、2017年は、SDGs(持続可能な開発目標)の考えを取り入れた新たな切り口での報告となっています。

「未来を創る」をコンセプトに、「食・健康」「地球環境」「社会・インフラ」の3つの切り口で特集を組みました。また、東洋アルミグループが取り組むべき重要課題(マテリアリティ)について、SDG Compassに基づき策定した経緯や目指す方向性、活動事例などを掲載しています。

2016年に引き続き、明治大学特任准教授 関 正雄氏から第三者意見をいただき、継続的なCSRの取組みの向上につなげています。

■参考ガイドライン

- ・ ISO26000(社会的責任の国際規格)
- ・ GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」
- ・ 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- ・ SDG Compass:SDGsの企業行動指針

■対象期間

2016年4月～2017年3月の取組みを中心に、2017年度の方針や活動についても一部報告しています。

■対象範囲

東洋アルミニウム(株)および関連会社

■発行時期

2017年9月(次回2018年9月予定、前回2016年9月)

■表紙デザイン

「未来=パズル」を「創る=子どもが組み立てる」というコンセプトを表現しました。

食・健康の 未来を創る



食の安全・品質は人々の暮らしと密接に関わる重要なテーマです。また品質保持期間の延長は食品廃棄物の抑制にもつながります。私たちはアルミ箔の特性を活かし、これらに貢献した製品の提供を行ってまいります。

医療・介護サービスは最も重要な国民のセーフティネットであり、国民全てに質の高いサービスを公平に提供していくことが重要です。私たちが扱う医薬品包装は衛生面に優れていると同時に、誤飲や偽造防止の機能などによって事故を未然に防ぐことで貢献しています。



食べものを無駄にしない 画期的な撥水・撥油技術

「ヨーグルトを開けたとき、蓋に何も付いていない」、私たちはそんな撥水技術の水をはじくハスの葉をヒントに開発しました。また、マヨネーズなどの付着を防ぐ撥油技術の開発にも成功しました。

さまざまな食品包装材に撥水・撥油技術を駆使して「無駄なく食べきる」ことを目指します。また、食品廃棄量を減らすことで環境負荷低減にも貢献します。



ヨーグルトをはじく蓋

薬の誤飲を防ぐ 工夫を施した包装材

欧米では、子どもが薬を誤って飲み込んでしまう事故を防止するための法規制が整備され、日本国内でもその重要性が厚生労働省から指摘されています。

私たちは、アルミ箔をめくってから錠剤を押し出す2ステップ方式や、錠剤の押し出しに強い力を必要とするアルミ包装材を開発しました。これらの包装材は子どもが容易に開封できないため、誤飲防止に大きな効果が期待できます。



子どもが容易に開封できない薬の包装

環境に有害な溶剤を含まない より安全、安心なインキ用顔料

国際的に有害な有機溶剤を含まないインキ(スイス条例対応品)が求められるようになってきました。私たちはその要望に適した、発ガン性の恐れのある溶剤を全く含まないノンアロマトイプのインキ用アルミニウム顔料の開発に成功しました。

食品など包装材の印刷に幅広く使用されることを期待します。



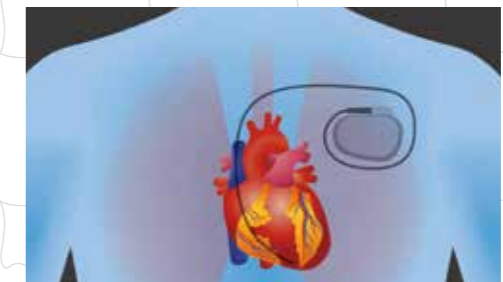
一般食品など包装材イメージ

コア技術の融合により ペースメーカーの小型化を実現

病気やケガなどにより埋め込み型ペースメーカーを利用される方にとって、機器の小型化は日常生活を送る上で大変重要であり、実現が望まれています。

私たちは「アルミニウムの圧延技術¹⁾」と「アトマイズ技術²⁾」という2つのコア技術を合わせた製品により、ペースメーカーの小型化に貢献しています。小型化により電池交換時の負荷が軽減され、日常生活で健康者とほぼ変わらない生活を送ることを可能にしました。

圧延技術¹⁾: アルミニウムをロールによって圧力を加えて薄く均一に延ばす加工技術
アトマイズ技術²⁾: 溶融したアルミニウムを霧吹きのように吹きつけ、粉末にする加工技術



ペースメーカーのイメージ図

地球環境の未来を創る



再生可能エネルギーは、温室効果ガスをほとんど排出せずに地球温暖化防止に貢献できることから、持続可能な社会づくりにおいて欠かすことのできないエネルギー源です。私たちは、太陽電池の高効率、高品質を支える材料の提供を通じて再生可能エネルギーの普及に貢献しています。

また、循環型社会の構築に向け、より環境負荷が少ない生産工程への変更や、廃棄物の排出量削減、再利用、再生利用に継続して取り組んでいきます。

さらなる高変換効率を追求し暮らしに身近な「発電」へ

地球温暖化対策において、再生可能エネルギーの利用促進が期待されています。その中で太陽電池は人々の暮らしに身近になる一方で、さらなる高効率化が求められています。

私たちは、太陽電池用部材の開発、製造、販売を通じて、太陽電池パネルの発電効率向上、発電コストの低減に大きく貢献しています。また、新製品「軽量化パネル」を普及させていくことにより、「発電」をより暮らしに身近なものに変えていきます。



八尾製造所の屋根に設置した太陽電池パネル

VOC低減に貢献する水性塗料の普及に向けて

塗料には溶剤系(油性)塗料と水性塗料がありますが、従来、溶剤系塗料が使用されているところを水性塗料に変更することでVOC発生量を減らすことが可能となります。しかし、メタリック塗料に必ず添加されるアルミフレークは、水性塗料中では水と反応し、水素ガスを発生するため、そのままでは使用できません。

私たちは、アルミフレーク表面に透明な保護層(シリカ層)をコーティングすることで、水を通さず高意匠性を維持したシリカ処理顔料を開発しました。耐水性のある高輝度メタリック顔料を通じて、水性塗料の普及を拡大し、VOC低減に貢献します。

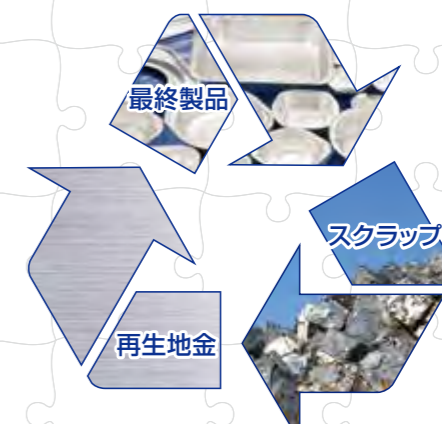


アルミフレークを使用したメタリック塗装自動車イメージ

供給先との協働によるアルミ容器のリサイクル

東洋アルミエコープロダクツ(株)は、数年前よりアルミ容器の供給先である食品工場の協力のもと、供給先で使用したアルミ容器を回収するしくみを構築しました。回収された容器は溶解業者に送られ、再生地金になり、新たな用途で再利用されています。

将来的には、一般家庭からの回収も視野に入れた、私たちにしかできない一歩進んだリサイクル活動を積極的に推進していきたいと考えています。



アルミ製品リサイクルの流れ

社会・インフラの未来を創る



日本では高度経済成長期の1960年代ごろに造られたインフラなどが老朽化し、事故につながる危険性が高まっています。また自然災害が多発する国でもあり、そうした災害にも対応できるレジリエントな構造や品質が必要とされています。私たちは東洋アルミグループ独自の技術により、素材の劣化防止や強度向上などを可能にし、構造物を長寿命化することで貢献しています。

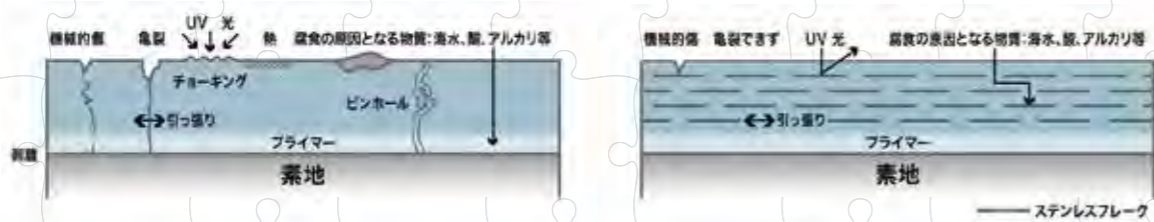
構造物をサビから守りメンテナンスの負荷を低減

構造物の劣化原因の一つにサビがあります。また、劣化までの期間が短ければ、メンテナンスにおける負担も大きくなります。

私たちは、ハンマーで叩いても割れないあわびの貝殻などに見られる積層構造をヒントに、塗料「サビコナーズ™」を開発しました。塗料に高品質のステンレスフレークを含有させ、硬い塗膜と優れた耐薬品性、高耐久性を実現しました。亀裂が入りにくくなり、メンテナンスサイクルの長期化に貢献しています。



日本軽金属(株)蒲原製造所の発電所用水圧鉄管



構造物表面イメージ／従来(左)、サビコナーズ™使用(右)



包装材で培った知見で構造物の耐久性向上に貢献

コンクリート施工した構造物は、表面の仕上げ方によって印象が大きく左右されます。

私たちが開発した「アート型枠®」には撥水技術が利用されており、コンクリート表面の気泡と色むらを抑制します。また、コンクリートの表面を研磨せずとも従来工法よりも表面が極めてきれいになるだけでなく、雨水がとどまりやすい気泡が少ないことから、コンクリートの耐久性向上にも貢献します。アルミニウムだけではなく、さまざまな技術的知見を活用し社会に貢献していきます。



コンクリート表面写真／従来(左)、アート型枠®使用(右)

未来の製造業を支える3Dプリンター

金属3Dプリンターは、どんな複雑な形状でも1工程で製造できることで注目を集めています。

私たちは、3Dプリンターで使用する、組成・形状が均一なアルミニウム合金パウダーを製造しています。これまで形状が複雑で、金型での製造が不可能であった部品の製造が可能になり、未来の製造業を支えることが期待されます。



アルミニウム合金パウダーを使用した3Dプリンター成型品

| 会 | 長 | 対 | 談 |

従業員・会社の 品格を一流にし、 存続することが 社会的責任

東洋アルミグループのCSR推進に関して
ご助言をいただいている
明治大学特任准教授の関 正雄氏と
弊社代表取締役会長の今須 聖雄が
「東洋アルミグループのCSR」というテーマで、
対談を行いました。

【関】東洋アルミグループにとっての社会的責任とは、どのようなものでしょうか。

【今須】私は、会社のミッションとは存続することだと思っています。社会に役立つために存在し続けること、そして従業員を幸せにすること。そのために、利益をきちんと出しながら、将来的な存続と成長を実現するための取組みが必要です。それが東洋アルミグループの社会的責任、CSRの取組みです。私は、CSRに熱心に取り組むのは、トップの責任だと考えています。CSRは将来の存続・成長のために必要なものだと、トップが言い続けなければいけません。CSRが利益に貢献しないなどと言っているうちは、一流の会社ではないと考えています。そして、東洋アルミグループを一流の会社にするのは従業員の力以外にありません。



一流の従業員が一流の会社をつくります。
形成するのは従業員です。
会社の価値を



東洋アルミニウム株式会社
代表取締役会長

今須 聖雄

【関】東洋アルミグループの行動方針の一つに、「一流を目指そう。」と掲げられていますが、今須会長として、人の育成にかける思いについてお聞かせください。

【今須】ITが進もうとも、AIが導入されようとも、会社を構成するのは従業員で、最終的には従業員が会社の価値を形成します。行動方針の「一流を目指そう。」というのは、私が特に重きを置いているものです。売上や、その他の経営の要素で一流になるのは必要ですが、会社の品格そのものが一流にならなければなりません。業績が良くても、従業員の品格が良くなければ会社の品格は良くなりません。

【関】「一流」や「品格」とは、具体的にどのようなことでしょうか。

【今須】当たり前のことを当たり前に行えることだと思います。



明治大学 経営学部 特任准教授 および
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
CSR室 シニアアドバイザー

関 正雄氏

例えば、挨拶がきちんとできることです。近隣の皆さんやお得意先、資材の購入先などの社外の人たちや従業員同士で、単なる情報伝達ではなく、本来の意味でのコミュニケーションを取ることです。日々のコミュニケーションの積み重ねが、社会から認められる品格をつくるのだと思います。社会から認められる品格がなければ、CSRも絵空事になってしまうのではないのでしょうか。CSRというのは、何かをやること・やらないこと、法律を守ることだけではありません。基本的には姿勢の話だと思います。

【関】CSRの本質をついたお考えですね。もちろん、CSRを知識として身に付け理解することは必要ですが、そこに意志や魂が入らないと本物のCSRにならないと思います。

【今須】日本の文化には「道」というものがあります。柔道や剣道、茶道、華道、みんな「道」という言葉がつきます。それは「型」

と「精神」の融合だと思うのです。それと同じで、もちろん「型」を身に付けることも必要です。そして、「型」に「精神」を吹き込むことで、それは本物になるんだと思います。

【関】会社の成長には何が必要とお考えですか。

【今須】従業員の成長が会社の成長に直接つながります。東洋アルミグループの行動方針に、「未来を創る、私が創る。」というものを掲げていますが、私がよく従業員に言うのは、物事をできる・できないで考えないでくださいということです。重要なのは、やるか・やらないかです。できる・できないはその結果です。また、できる・できないですと、どうしてもできない理由がたくさん出てきます。まずはやるのが大事、そういう気持ちが必要です。従業員にとって会社というのは夢の実現の舞台です。その舞台に立って、自分で自分の未来を創っていく、それはイコール会社の未来も創ることです。なかなか口で言っても伝わらないので、リーダーの立場にある人には、それを背中ですすように言っています。背中というのは自分では見えませんが、自分自身がそこに表れています。背中が教えるということは、リーダー自身が自分を築き上げる必要があるということです。

【関】これまで以上に長期的な視点に立ち、会社としての強い「意志」を持って、成長を考えなければいけない時代ですね。

【今須】今見えている景色の先に、「何をやらないといけないのか」ということを汲み取らないといけません。目先の利益だけでなく、すぐに成果が見えなくても社会に責任を果たし、役立ち続けることが会社の成長と存続につながるのだと信じています。

形だけでなく、
意志や魂が入らないと
本物のCSRにはなりません。





東洋アルミニウム株式会社
代表取締役社長

山本 博

株式会社クレアン
代表取締役

菫田 綾子氏

社 長 対 談

社会課題解決と経済価値創出の両立に向かって

SDGs(持続可能な開発目標)の実現を使命としている

(株)クレアン代表取締役の菫田 綾子氏と弊社代表取締役社長の山本 博が「創立100周年(2031年)を見据えた事業のあり方」というテーマで、対談を行いました。

【菫田】現在の事業環境をどのように捉えておられますか。

【山本】東洋アルミは、2031年に創立100周年を迎えます。しかし、弊社のアルミニウムビジネスの国内マーケットは縮小しており、我々は危機感を持っています。現在の、箔事業、パウダー・ペースト事業、ソーラー事業、日用品事業の4本柱に次ぐ、第5の柱を創出することが課題です。国内需要のシュリンク傾向に対応するため一層のグローバル展開も目指しています。

【菫田】第5の柱とは、具体的にはどのようなイメージを持っていますか。

【山本】新事業・新製品と言うのは簡単ですが、大変難しい。我々は、B to Bの中間素材メーカーであり、最終消費者とのつながりがほとんどありません。これからは、新事業の開拓・新製品の開発に当たり、素材メーカーの枠を超えて、事業展開を検討していく必要があると考えています。

【菫田】グローバル展開に当たって、CSRの具体的な取組みについてもお聞かせください。

【山本】今、市場として力を入れているのは、ASEAN諸国と、次にインドを含めた中近東です。ここでは能力ある現地人財



素材メーカーの枠を超えた事業が必要です。
世界が直面する課題に
ビジネスとして価値を生み出す
発想が鍵になります。

を登用する一方で、ものづくりを日本の水準にできればと考えています。弊社は、安全では2005年に粉塵爆発、品質ではグループ会社のリコール事例、環境では工場からの有害物質の漏洩などを起こしました。安全、品質、環境事故の再発防止のため、レベルアップが必要です。我々のCSRの基盤は、安全・品質・環境であり、これらについては、とにかく日本国内で徹底すること。そしてそれを海外に横展開していきたいと考えます。

【菫田】2031年の創立100周年に向けて、ありがたい姿とはどのようなものでしょうか。

【山本】ありがたい姿は、これから従業員全員で考えたいと思っていますが、先ほど申し上げたように、まずは第5の柱の創出とグローバル展開ですね。新事業・新製品は、社会的なニーズに応えるだけでなく、ビジネスとして成り立ち、経済的な価値も創出するものでなければなりません。

【菫田】東洋アルミグループでは、「人材」ではなく「人財」という言葉が使われていますよね。自社に必要な人財についてのお考えをお聞かせください。

【山本】3つあります。一つ目は、自分で企画立案できる人。二つ目は、イノベーションの意識が高い人。三つ目は、ローカル(現地)とのコラボレーションができる人です。

一つ目は、とにかく自分で全部やれる人を育てたいと考えています。マルチプレイヤー的な人財ですね。二つ目は、現状に満足することなく、何かを変えよう・生み出そうとする人。三つ目は、文化面で、地域の文化に適應できる、フレキシビリティの高い人財が必要であると考えています。

【菫田】国連が示した持続可能な開発目標(SDGs)を積極的に経営に取り入れられていますね。

【山本】我々はアルミニウムメーカーではありますが、グローバルに事業展開する上で、現在の事業だけでなく、例えばSDGsのゴール3「すべての人に健康と福祉を」であれば対抗

菌性や対感染症の製品開発、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」であれば太陽電池やリチウムイオン電池の普及を通じたCO₂削減などにより、マーケットを広げるとともに、世界が直面する課題へも貢献できるのではと思っています。さらに、さまざまなパートナーシップを結ぶことで、最終消費者や地域住民の声を取り入れた事業展開ができるのではと考えています。

【菫田】SDGsには新たなビジネスを考える際のヒントがたくさん詰まっていると思います。御社はこれまで、コミュニティへの取組みに力を入れていらっしゃいますね。

【山本】例えば、工場周辺の川や道路の清掃、地域の祭りへの参加など、そういう活動はしています。しかし、今後はNPO・NGO活動、災害時のボランティア派遣なども自らが汗を流して積極的に参加していきたいと思っています。

【菫田】現地に行って困っている人を自分たちの目で見ると、そこで発想がいろいろ生まれてくるというのはありますよね。

【山本】社会貢献活動に時間をとってやれる体制にしたいですね。地域とコミュニケーションをとることで、新しい絆や信頼関係を構築し、それによって、潜在的なニーズも出てくるのではと。それが事業につながればと考えています。例えば、BOP*ビジネスですね。このように、単なる社会貢献活動ではなく、我々の事業の強みを活かし、持続的な成長を通じて社会に貢献する活動、すなわちCSV(共有価値の創造)の考え方を取り入れ、社会的な課題解決をビジネスにする活動に展開できればと考えています。

BOP*: Base of the Economic Pyramidのことで、所得ピラミッドの最下層の意味

SDGsには新たなビジネスを考える際の
ヒントが詰まっています。



未来に向けたビジョンと戦略

東洋アルミグループでは、経営理念および行動方針に基づくCSR基本方針、CSR行動憲章を策定し、CSR活動を推進しています。

加えて、2015年9月に国連で採択された、2030年に向けた「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」について、その背景を理解した上で目指す姿に賛同しています。

今までのCSR活動は、法令遵守など社内外に悪影響を及ぼさない活動「守りのCSR活動」が中心でした。2016年度からは、CSV(共有価値の創造)の考えを取り入れるとともに、SDG Compassに従った活動「攻めのCSR活動」の土台づく

りに着手し、SDGsで掲げられた課題解決に向けて真摯に取り組みはじめました。持続可能な社会へ貢献するとともに、企業価値向上を目指します。

東洋アルミグループのCSR行動憲章はWebページをご覧ください。



SDGsについて

2015年9月、全国連加盟国(193国)は、より良き未来を実現するために今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」です。SDGsは、ミレニアム開発目標で十分に手を打てなかった課題に加え、Rio+20で議論された深刻化する環境課題など17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって「誰も取り残されない」世界を実現しようという壮大なチャレンジです。

出所：グローバルコンパクトネットワーク・ジャパンHPより引用 <http://www.ungcnj.org/sdgs/index.html>



SDG Compassについて

SDG Compassは、企業がSDGsに最大限貢献することを目的とした行動指針です。右図のように、5つのステップで成り立っています。

SDG Compassの冒頭で記載されている「本SDG Compassは、各企業の事業にSDGsがもたらす影響を解説するとともに、持続可能性を企業の戦略の中心に据えるためのツールと知識を提供するものである。」の通り、東洋アルミグループのCSR活動に最大限活用します。



マネジメント

SDG Compassに基づいたCSRマネジメント

東洋アルミグループでは、SDGsを企業経営およびCSR活動に活用し、SDGsへの貢献を測定・管理していくため、SDG Compassを取り入れたCSRマネジメントを実践しています。SDG Compassに従い、2016年度は、ステップ1「SDGsを理解する」、ステップ2「優先課題を決定する」を実施しました。ま

た、本報告書はステップ5「報告とコミュニケーションを行う」の一環と位置付けています。2017年度以降、ステップ3「目標を設定する」、ステップ4「経営へ統合する」を実施した上で、ステップ1から5のサイクルを回し、CSRの取組みを継続的に発展させていきます。

① SDGsを理解する 役員・従業員に対する理解浸透

2016年、明治大学経営学部特任准教授の関 正雄氏を講師としてお招きし、SDGs勉強会を開催しました。勉強会は、CSRに従事する従業員はもちろんのこと、役員・部門長、その他関係者を対象として、約180名が参加しました。講義内容は、SDGsとは何か、SDGsの策定経緯、企業がSDGsを経営に取り込む手法などが含まれます。勉強会終了後の参加者アンケートでは、「SDGsはまだ遠いところの話のように感じる」という率直な意見がある一方、「あらためてCSRの重要性を再確認した」「一人ひとりがCSRの意識を高めることが大事だ」と、CSR活動について前向きな意見が多くありました。

これからも、CSR活動・SDGsについて、役員・従業員の理解浸透を図ります。



関特任准教授を招いてのSDGs勉強会

② 優先課題を決定する ステークホルダーから見た期待の分析

ステークホルダーエンゲージメントの一環として、東洋アルミグループの重要課題(マテリアリティ)を特定するに当たり、ステークホルダーを代表する5名の専門家に意見を伺いました。CSR全般、環境、人財、国際協力といった幅広い分野の方

に、東洋アルミグループによる社会課題への貢献に関する期待を伺うことで、より幅広い視野での分析・重要課題の特定が可能になりました。

 明治大学 経営学部 特任准教授 および 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室 シニアアドバイザー 関 正雄氏	 株式会社大和総研 主席研究員 河口 真理子氏
 一般財団法人 持続性推進機構 理事長 東京大学名誉教授 安井 至氏	 株式会社 佐々木常夫マネージメント・リサーチ 代表取締役 佐々木 常夫氏
 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC) 事務局次長 (当時) 富野 岳士氏	

いただいた 主なご意見

- アウトサイドインの考え方を取り入れて検討してほしい。
- 未来志向でマテリアリティを検討してほしい。
- SDGs全てに幅広くではなく、自社の役割や特性を鑑みて取り組むべきである。
- アルミニウムのライフサイクルでの環境負荷についても着目してほしい。
- 成長戦略として女性活躍は必要である。



② 優先課題を決定する

自社から見た重要度の分析

2016年12月、事業部門と管理部門から構成される組織横断型のCSR推進チームを発足し、3回にわたりワークショップを実施しました。その中で、東洋アルミグループにとっての重要課題を洗い出し、その重要度を分析しました。分析結果には、経営層へのヒアリング結果を反映しています。


重要課題は、SDGs、ISO26000、GRI「サステナビリティ・レポートング・ガイドライン第4版」など、社会的責任に関

わる国際的なガイドラインを踏まえて網羅的に洗い出しました。洗い出された課題について、事業環境などを加味してワークショップで議論し、自社から見た重要度を付与しています。

私たちが特に重視したのが、事業活動を通じた社会課題の解決です。CSV(共有価値の創造)の考えのもと、SDGsに貢献できるイノベーションを生み続けることを意識し、分析を行いました。


経営層による主な意見

2017年3月、4月 経営層へのヒアリングを実施
役職は当時のものです




代表取締役会長
今須 聖雄 (左)
代表取締役社長
山本 博 (右)

CSR活動の推進はトップの責任であり、社会への責任を果たしながら、その中できちんと利益を出すことを諦めない姿勢が重要です。従業員の皆さんには、多くのイノベーションを生み、持続可能な社会、持続可能な事業活動に貢献することを大きく期待しています。




取締役 専務執行役員
経営企画本部並びに
原料部統轄
経営企画本部長
上田 雅通

強固なガバナンスの構築や優秀な人財の獲得など、CSRの基盤を固めることに貢献していきたいと考えています。また、今後は収益管理・キャッシュフロー管理に加えて、我々の製品が社会にどう役立っているのか、役立つべきなのかを意識し、SDGsに取り組みます。



取締役 専務執行役員
技術統轄、
人事部門・秘書部門・総務部門・
東京総務部門・
エンジニアリングセンター部門
統轄
清水 遵

事業として第5の柱をつくることを目指し、CSVの観点での取組みに注力します。そのために、多様な価値観や観点を重視し、イノベーションを起こしていきたいと考えています。



取締役 常務執行役員
CSR推進室、
内部監査室並びに
品質保証室統轄
浅田 淑

2031年に迎える創立100周年に向けて、私たちが目指すありたい姿を描くことが必要です。そのために自分たちのできることを探り、全員参画で重要課題に取り組むことが重要であると考えています。

特定したCSR重要課題(マテリアリティ)

「ステークホルダーから見た期待」と「自社から見た重要度」による分析を実施した上で、CSRの重要課題(マテリアリティ)5つを策定しました。また、重要課題に取り組むに当たり、ガバナンスがその基盤にあります。

東洋アルミグループは、グローバル企業としての責任を果たし、「未来を創る」ことに積極的に貢献していくため、5つの重要課題を中心にCSR活動を推進します。

東洋アルミグループのCSR重要課題



CSR重要課題	概要	SDGsへの貢献
1 未来を創るイノベーション	SDGsに関連するテーマ、特に「健康・医療」、「持続可能なエネルギー」、「インフラ強化」などを中心に、東洋アルミグループの強みを最大限に活かし、未来志向で社会課題を解決するイノベーションを追求していきます。	3, 6, 7, 9, 11, 12, 13, 14, 17
2 環境保全	製品の生産から利用、リサイクルまでを考慮し、温室効果ガス排出を削減するとともに、それ以外の環境負荷軽減にも取り組めます。	3, 6, 7, 9, 11, 12, 13, 14, 15
3 多様な人財の活躍	グローバルに成長する多様性のある組織として、自律性とチャレンジ精神がある人財を育成するとともに、人権やライフワークバランスに適切に対応していきます。	5, 8, 10
4 品質と安全	メーカーの基本である製品の品質・安全確保と安定供給および従業員の安全・健康確保については、手を緩めることなく、継続的に強化していきます。	8, 12, 17
5 ステークホルダーとの協働	ステークホルダーとの対話を通じて、果たすべき役割を適切に理解・推進するとともに、その中から新しい社会価値の機会を模索し、協働していきます。	2, 12, 17

CSR重要課題

1

未来を創る イノベーション



Why? なぜ重要か?

メーカーの最も重要な社会的責任は、社会的ニーズに対して新しい技術・製品を提供し、社会課題の解決・持続可能な社会に貢献するとともに、経済的価値を創造することだと考えています。私たちは、アルミメーカーとしての枠組みにとらわれず、コアコンピタンスを活かし、より良い技術・製品を開発・提供し続けることを目指します。

Our Approach

アプローチ

私たちは、80年以上続くアルミ箔や、アルミパウダー・ペー
スト、太陽電池、日用品の4つの柱をコアコンピタンスとし、そ
れをベースに応用技術の研究を行っています。

また、CSV(共有価値の創造)の考えを取り込み、第5の柱と

なる技術の確立を目指しています。そのため、社会の潜在的
なニーズのマーケティングを進めるとともに、先端技術本部
および新事業創造部を中心としたコア技術の開発を行ってい
ます。

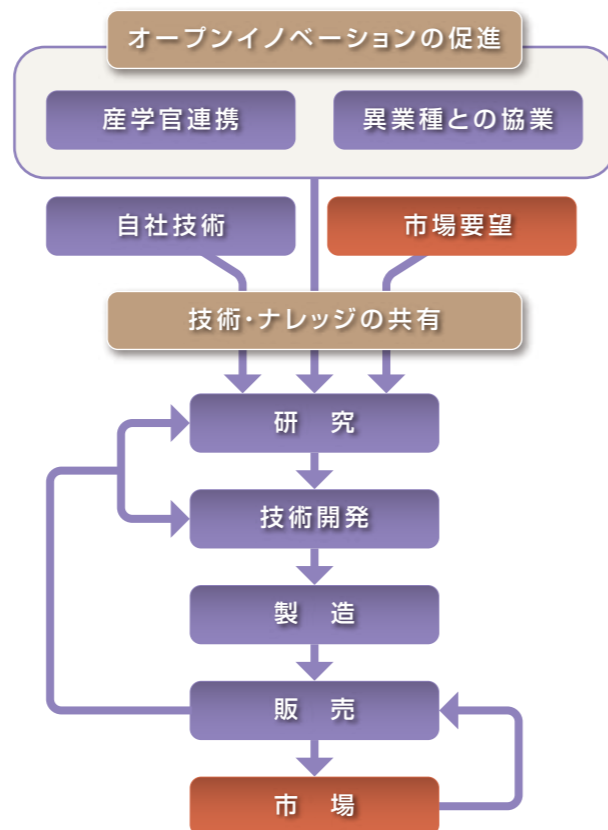
研究開発体制

東洋アルミグループはこれまで、4つの柱それぞれにオンリーワ
ンの技術を持ち、社会に貢献してきました。例えば、撥水技術を適
用した製品やシリカ処理アルミペーストなどを開発・製造販売して
いますが、これは独自の高い技術力をもってお客さまの要望・期待
を取り込んできた結果であり、素材メーカーとして、食品・医療包
装、メタリック塗料、パウダービジネスを牽引してきたと自負して
います。

現在は、先端技術本部と新事業創造部を中心に、4つの柱にお
ける新たな製品開発に加え、第5の柱となる事業領域創生に向け
た活動を行っています。先端技術本部は革新的な技術開発を担
い、新事業創造部は新たな事業分野に対してマーケティングから
開発・製造販売まで一貫して取り組んでいます。具体的な取組み
として、産学官共同での新たな発想の研究や、既存ビジネスとは
全く異なる業種のビジネスニーズと東洋アルミグループのコアコ
ンピタンスを融合した、新たなビジネスの展開が挙げられます。こ
れまでに、従来の回路市場で不可能だった半田付けできるアルミ
箔や、医療用機器として放熱性に優れた鼻骨骨折用固定具、原子
力分野での放射性物質の除去技術などの開発を行いました。

今後はさらに、CSVの観点を取り入れ、ステークホルダーとの
コミュニケーションを深め、東洋アルミグループと社会との共有
価値の創造を実現できる開発を行います。

■ 新規技術開発の模式図

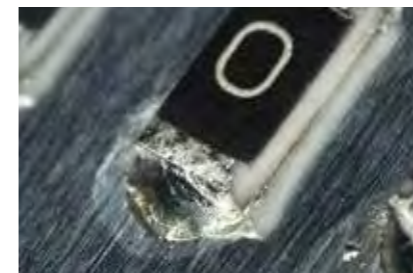


Our Performance

活動事例

半田付けできるアルミ箔の 開発により 広範囲な分野への採用が可能

アルミ箔は軽量で加工がしやすく錆びにくいいため、回路材
料としてICカードや防犯タグなど、さまざまな分野で利用され
ています。しかし、これまで一般的な半田ではアルミ箔に半田
付けをすることができませんでした。私たちは長年の研究で
培ったアルミ箔の改良技術により、一般的な半田でも半田付
け可能なアルミ箔の開発に成功しました。これにより、さらに
広い分野でのアルミ箔回路の採用が期待されます。



LEDチップが半田付けされているアルミ箔

超高平滑な表面を実現した 高反射アルミ箔

高い光反射性が求められる反射ミラーではアルミ蒸着膜*
が採用されています。一方で、アルミ箔は光沢感のある金属
でありながら、鏡面に仕上げることは困難でした。私たちは、アル
ミ素材の開発、圧延技術およびロール研磨技術の応用によ
り、アルミ箔の特性を兼ね備えながらも、超高平滑な表面を得
た高反射アルミ箔の開発に成功しました。高反射アルミ箔は、
アルミ蒸着膜よりも耐久性が高いため、太陽光調理工具や集
光デバイスなどの長期耐久性向上が期待されます。

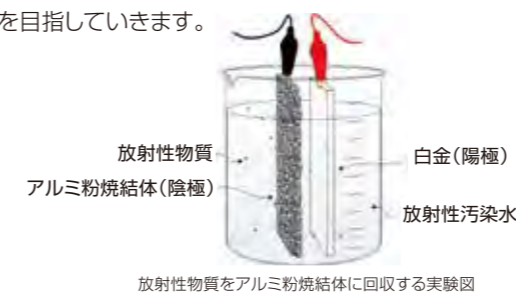
アルミ蒸着膜*:加熱蒸発させたアルミニウムを膜状に被覆したもの



鏡のように像が映り込む高反射アルミ箔

アルミ粉焼結体の 多孔質構造を活かした 放射性物質の除去技術

原子力発電において、膨大な放射性汚染水の処理が必要と
されています。放射性物質は半減期が30年と長いものがあり、
環境中の残留が危惧されています。私たちは、コンデンサ材
料として用いられるアルミ粉焼結体の多孔質構造を活かし、
汚染水中の特定の放射性物質を回収する実験に成功しまし
た。今後はさらなる最適化の研究を行い、汚染水処理システ
ムの実用化を目指していきます。



放射性物質をアルミ粉焼結体に回収する実験図

アルミ成形技術を応用した 鼻骨骨折用固定具

鼻骨の骨折手術後は鼻が腫れて熱を帯びてしまい、冷却方
法が課題となっていました。そこで私たちは、アルミニウムの
優れた熱伝導性・放熱性を活用するとともに、長年のアルミ成
形技術を応用し、腫れた鼻にもぴったりとフィットする鼻骨骨
折用の固定具を開発しました。開発した固定具は、お湯に浸す
だけで柔らかくなり、鼻の形に合わせて自由に成型できます。常
温で固くなり、しっかり固定することができます。今後も、現場
のニーズや課題を探りながら、医療機器の開発に挑戦してい
きます。



鼻ギブスを使用したイメージ図



Voice

東洋アルミニウム株式会社
パウダーペースト事業本部
事業戦略室
浅野 祐一

これまで、プロダクトアウト、マーケットインの両面から、数多くの製品を製造・販
売してきました。今後はCSRの取組みの一環として、ステークホルダーとのCSV
(共有価値の創造)の考え方を取り入れ、オープンイノベーションの促進を目指し
ます。

CSR重要課題

2

環境保全

Why? なぜ重要か?

私たちは、原料にボーキサイトという鉱物資源から造られたアルミニウムを加工し、さまざまな製品の素材に利用しており、その加工過程において多くの資源やエネルギー、化学物質などを利用し環境へ影響を及ぼしていると認識しています。そのため、地球環境と調和した経営活動を行う必要があると考えています。

Our Approach

アプローチ

私たちは、製品による環境貢献と事業活動に伴う環境負荷低減の2つの方面から環境保全に取り組みます。製品では、太陽電池用部品関連において、高効率・コスト低減につながるよう技術開発を行います。事業活動では、主に加工工程での

エネルギー使用の削減、化学物質の適正な使用・管理、リサイクルなどを中心に取り組みます。

また、環境マネジメントシステムなどを通じて、環境トラブルの撲滅に力を注いでいます。

Our Performance

活動事例

平野工場(当時)の環境事故発生報告 および再発防止策の徹底



2016年9月19日、平野工場(当時)で作業員が投入薬品を間違えて塩素ガスを発生させる環境事故が発生しました。警察と消防による指示で、工場近隣を一時封鎖し地域住民が屋内待避する、大きな事故となりました。

再発防止策として、薬品の誤投入が物理的に不可能なくみの導入や、各種表示の見える化(投入すべき薬品名のタンク投入口への明示やバルブの開閉状況の明示など)、点検項目の充実などに加え、リスクアセスメント(潜在的な危険性の洗い出しと対策の検討)を実施しています。また、2016年11月には、管轄消防署と共同で救急事態対応訓練を実施しました。訓練では、消防署への通報や待機場所への避難、保護員の着用方法の確認および被災者の救護を行いました。救急事態対応訓練は継続して実施し、再発防止に注力します。



平野工場(当時)での救急事態対応訓練

環境トラブル(事故・異常・苦情) 撲滅に向けて重点活動を実施



東洋アルミグループでは、事業所外部に影響を及ぼす「環境事故」や「環境苦情」と、事業所内部で発生する「環境異常」を撲滅するために3つの重点活動を実施しています。

- (1)過去に発生した重大事故について、環境監査の実施ならびに監査指摘事項の定期的なフォローアップを行うことで、再発防止策の有効性確認とレビューを実施する。
- (2)特に人的要因による事故については、事故防止策の妥当性検証に加えて、さらなる根本対策が実施できるように、社外コンサルタントも活用した客観的指摘体制でレベルアップを行う。
- (3)事業所外部に影響を及ぼす「環境事故」を防止するため、緊急事態発生時に適切な対応ができるよう定期訓練を実施し従業員のレベルアップを行う。

ISO14001: 2015年版への 移行対応



ISO14001は2015年9月に初めて全面改正が行われ、2015年版となりました。改正により、環境マネジメントシステムの事業活動・戦略への統合、環境パフォーマンスの重視、ライフサイクル思考など、私たちが重視しているSDGsに深く関連する内容に変更されました。ISO14001を認証取得している各事業所は、期限である2018年9月までに、順次2015年版への移行対応を進めていきます。



ISO14001:2015年版移行審査の様子

圧延油回収率向上に 向けた取り組み



アルミ箔の製造工程において、アルミ箔を薄くする箔圧延機は圧延油を多量に使用しています。この圧延油は揮発性が高く、アルミ箔の圧延中に気化して、大気へ放出されてしまいます。そこで、気化した圧延油を回収するために、油煙回収装置の設置を進めています。2016年度は八尾製造所、蒲原製造所に各1基を新規導入しました。この結果、気化した圧延油を40%以上回収することが可能となりました。今後もさらなる回収率向上に向けて改善活動を進めていきます。



Voice

東洋アルミニウム株式会社
CSR推進室
大西 光雄

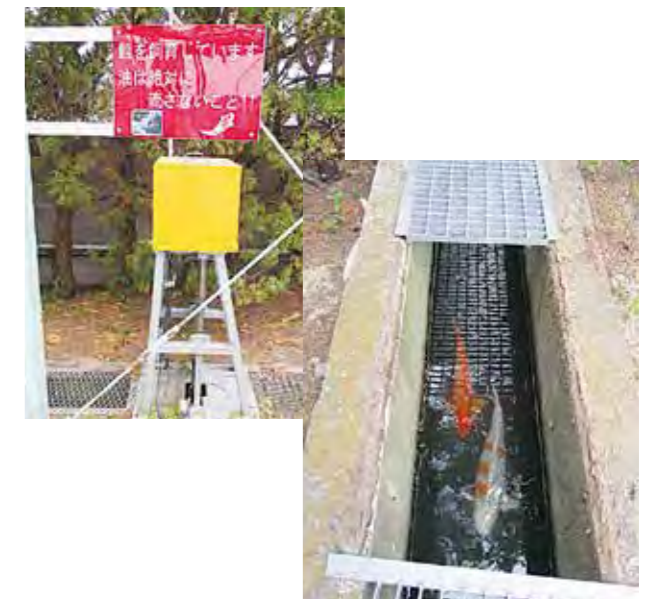
2015年にフランス・パリで行われたCOP21(第21回気候変動枠組条約締約国会議)にて、地球温暖化防止に向けたパリ協定が採択され、2016年に発効されました。パリ協定に基づく温室効果ガス排出量削減、廃棄物削減とリサイクル推進などの各種取り組みは、地球環境の保全だけでなく、東洋アルミの持続可能な成長の面からも必要不可欠なものです。各事業所とともに、今後も環境負荷軽減に向けた活動を推進していきます。

生物多様性保全に向け 地域と協働で活動を推進



私たちは、地球上の豊かな生態系を保護するための活動を、継続して実施しています。地域との協働により、2016年度は以下の活動を行いました。

- ・事業所排水を放流している河川の水質調査への参画や、下流にある貯水池における生態系の定期観察で、多様な水生生物の生態系への理解を深める活動の実施
- ・事業所外へ排出する最終放流口で鯉を飼育し、定期観察することで水質汚染による下流生態系への影響を防止
- ・事業所内に生息する特定外来生物の駆除



御所・事業所内水路での鯉の飼育状況

CSR重要課題

3 多様な人財の活躍

Why? なぜ重要か?

日本の事業環境の大きな流れを表すキーワードとして「グローバル化」「労働力人口の減少」「個人の価値観の多様化」の3つがあります。これらの背景を踏まえ、個人が働きがいを感じ成長を実感する環境を整備し、多様な働き方を実現することで、持続可能な社会および持続可能な企業活動に貢献します。

Our Approach

アプローチ

グローバル化への対応として、海外留学制度(従業員の海外派遣)によるグローバル人財の育成を行っています。また女性の活躍を支援するため、人事制度改革を行い、女性従業員が入社後も多くの選択肢から自分のキャリアを選択

できるしくみをつくりました。さらに、女性従業員向けにキャリアデザインに関する研修を実施しています。他にも、勤務場所にとらわれない働き方の導入を検討するなど、多様な働き方の実現に向けた取組みを推進しています。

Our Performance

活動事例

階層別研修の実施を通じて女性従業員のキャリア支援

東洋アルミニウム(株)では毎年、女性従業員を対象に、合計3日間のキャリアアップ研修を行っています。研修は、参加者が人事制度を理解し、自分のキャリアについて深く考えることを目的としています。2016年度の研修プログラムとして「キャリアデザイン」「気持ちを伝えるコミュニケーション」などを実施する他、他社で活躍している女性を招いて講演をしていただき、実際の現場で活躍している女性の声を聞くことで、キャリア支援を図っています。2019年3月31日までに女性従業員の3%が総合職へのコース転換ができるようにサポートしていきま



次世代リーダー育成につながる未来創造塾

東洋アルミグループは、次世代を牽引するリーダーの育成を目的とした研修である未来創造塾を開催しています。「アグリゲーター(自分のやるべきことを見出し、それをいかなる環境においても最後までやりきる力とモチベーションを持つ人財)の育成」をキーワードに、①未来を創るリーダーの育成、②経営層の自己変革、③「イノベーション創発」を促すしくみの確立・強化の3点をコンセプトとしています。2016年度はエグゼクティブセッションとして経営層16名、コアセッションとしてマネジメント層および中堅層21名が参加し議論を重ねました。コアセッションはグループワークで東洋アルミグループの新規プロジェクトの企画を実施し、経営戦略の立案力の向上を図りました。



第3期生 集合写真

誰もがいきいきと働ける職場環境の実現に向けて

東洋アルミグループでは、多様な人財が働きやすい職場環境を整備することで、全従業員が健康を確保し、意欲と能力を十分発揮し、生産性や創造力を高めることを目指しています。現在は、経営層による以下の施策の宣言がなされており、今後、本施策に基づきPDCAマネジメントを進めていく予定です。

- 働き方改革に向けて、経営として取り組むことを宣言します。
 - 特別条項を含む36協定の遵守
 - 時間外管理や過重労働防止のための取組みの継続
 - 業務プロセスの見直しや効率化・廃止による時間外労働の削減
 - 効率化や柔軟に創造性を発揮できる働き方を検討(在宅勤務、モバイルPC、Web会議などの整備)
 - 取引慣行の見直し(短納期依頼、発注内容の頻繁な変更などの削減策検討)

2. ハラスメント撲滅のための施策

- 管理者教育と各種研修の実施、体制の整備
- 厳格な処分などでの対応 など



明るく健康な職場作り(AKS) マナーズ*の取組み

東洋アルミグループでは、「明るく健康な職場作り(AKS)」の一環として、2009年よりマナーズ研修を全社展開しています。これは従業員の品格が良くなければ会社の品格が良ならないという精神のもと実施し続けている活動です。全国各地でマナーズの講師をされている大森和子先生のご指導によりマナーズトレーナーを養成し、各事業所にマナーズを浸透させてきました。一定の浸透を受け、昨年は、マナーズトレーナーを指導・育成するためのトレーナーズトレーナー養成研修を実施し、11名のトレーナーズトレーナーが誕生しました。

研修で使用している弊社のマナーズ本は、他社の研修でも活用されるなど、社外からも評価されています。今後も継続して取り組み、マナーズの一層の浸透を図る予定です。

マナーズ*:表面的なしきたりではない、道徳の裏付けが形になったもの



マナーズ研修 マナーズ本

技術者の長期海外派遣でグローバル人財を育成

グローバル人財育成の一環として、現在、ドイツの研究機関The International Solar Energy Research Center Konstanzに1名の技術者を派遣しています。派遣期間は1年間です。海外派遣制度は以前から行っており、カナダやイギリス、アメリカなどの実績がありますが、ドイツへの派遣は弊社で初めてです。世界最高レベルといわれるドイツの環境技術(太陽電池に関する技術)の習得および研究成果を期待しています。また帰国後は、習得した技術や研究成果とともにコミュニケーション力や異文化に対する理解について社内に展開していくことを期待しています。



Voice
東洋アルミニウム株式会社 先端技術本部 中原 正博

次世代画面受光型太陽電池モジュールの前にて

ドイツに来て感じたことは、仕事を進める上でのチームワークの大切さです。日本では、「人に仕事が就く」ことが多かったですが、ドイツでは「チームに仕事が就く」体制となっています。それにより、皆で知恵を出し合い、また、不在の際には、お互いフォローしながら仕事を進めるしくみができており、各人6週間もの長期休暇の取得が慣行されています。まさに、ライフワークバランスの鑑です。これらの経験を日本に持ち帰り、健全な事業成長につなげたいと考えています。



Voice
東洋アルミニウム株式会社 東京総務部 泉 恵銘

私は育児休業を取得し、2017年4月に復帰しました。休業中、子育てから得られる成長を感じるとともに、仕事でしか得られない成長があることに気が付き、仕事と育児の両立に励むことを決意しました。両立に伴い、時間の制約が厳しくなり一人で解決できないことが増えましたが、周りへ相談するなどコミュニケーションを増やした他、自分のスキル向上への意欲が強まっています。弊社は、妊娠出産後に育児休業を取得し、継続して勤務する方が多く、育児短時間制度は子どもが小学3年生になるまで利用できるなど、育児を支援する風土・制度が充実していると感じています。今後は、私自身が経験者として、また人事担当者として、同様の環境にある方をサポートしていきます。

CSR重要課題

4 品質と安全

Why? なぜ重要か?

私たちは、お客さまが安心して使うことができる製品、満足を得られる製品、社会に役立つ製品の提供により、社会・経済の発展に貢献することを目指しています。

一方で、「安全なくして生産なし」を合言葉に、安全は全ての職場において最優先であるとの認識のもと、事業を営んでいます。安全には、労働安全と製品安全の側面があり、双方の追求は、メーカーの社会的責任であると考えています。

Our Approach

アプローチ

東洋アルミグループは各事業所でISO9001の認証を取得しています。また、社長による安全パトロールを実施し、事故対策のフォローや課題の抽出に取り組んでいます。

さらに、ISO9001およびOHSAS18001に準拠したチェック

シートによる品質監査と安全監査を全事業所に展開しています。

これらの活動を通じて、継続的改善による品質の向上および品質・安全の事故ゼロを目指しています。

Our Performance

活動事例

品質審査会議による 品質事故発生リスクの低減



東洋アルミグループは、新製品発売前や工程変更前に品質事故発生リスク低減のための品質審査会議を開催しています。会議には、品質保証部門に加え、開発部門や生産技術部門という幅広い立場のメンバーが出席し、品質保証・リスク低減の観点で総合的にチェックしています。

2016年4月に規程を整備し、開催の対象範囲を拡大するなど、会議の開催促進を図りました。その結果、前年度に比べ開催回数が3倍に増えています。今後も、品質事故ゼロを目指し、品質事故発生リスクの低減に努めます。



品質審査会議の様子

品質審査会議開催実績



事業所相互品質監査による 品質保証体制のレベルアップ



東洋アルミグループでは、事業所相互の品質監査を実施しています。異なる製品・製造工程を持つ事業所同士が異なる観点から監査をし合うことで、グループ全体の品質保証体制のレベルアップを進めています。監査で確認した改善活動の良い取組みは、各事業所へ水平展開しています。今後も活動を継続し、グループ全体の管理レベルのさらなる向上を目指します。



品質監査打合せの様子

品質のチェック機能を見直し 商品回収の再発を防止



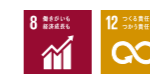
2016年6月に東洋アルミエコープロダクツ(株)にて、化粧品(ネイルケア商品)の回収に至る品質事故が発生しました。事故原因は、化粧品製造販売届の届出漏れです。販売商品の供給元である製造販売業者の届出漏れに関して、チェック機能がなかったため、気付かずに販売する事態になりました。

この事故を真摯に受け止め、品質審査会議のチェックフォーム見直しや専門家へのヒアリングを実施するなど、改善・再発防止に努めています。



回収対象商品

火気事故撲滅ワークチームを 立ち上げ、火気事故リスク低減



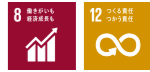
2015年7月、群馬製造所で有機溶剤の火災事故が発生しました。同様の事故防止のため、東洋アルミグループの加工品部門4拠点が集まり、火気事故撲滅ワークチームを立ち上げました。

ワークチームでは、工場の安全管理に関する専門家をコンサルタントに迎え、安全マネジメントシステムの国際規格を利用した自主活動を軸に、「現場」「現物」「現実」の3現主義と有機溶剤火災の理論・理屈に基づきさまざまな対策を検討しました。それらの対策を確実に実行し、再発防止に努めています。



ワークチームの活動の様子

ヒューマンエラー 撲滅対策



事故や災害の原因はさまざまですが、その多くにヒューマンエラーの要因が絡んでいます。

そこで2014年度から、製造現場で作業に携わる従業員を対象に、ヒューマンエラー講習を継続的に開催しています。2016年度は「ヒューマンエラーの処方せん」「ヒューマンエラー発生メカニズムと対策」と題して約250名の従業員が講習を受けました。

また、社長による安全パトロールの中でヒューマンエラーチェックを実施し、過去の災害現場でどのようにヒューマンエラー対策が取られているかを検証し、再発防止対策の有効性を確認しています。

東京オフィス 総合防災訓練の実施



2016年10月、東京オフィスで総合防災訓練を実施しました。内容は、関西地区に大規模地震が起こったという想定のもと、東京オフィスに対策本部を設置して関西地区の情報管理や統制を行うという図上訓練です。

訓練を通じて現行の事業継続計画の改善が必要な箇所を発見し、また、参加者は慣れない訓練に戸惑いを見せながらも多くの気付きを得ました。

今後は、全社的な防災訓練を年2回以上実施することで、従業員の感度を上げるとともに、事業継続計画の見直しに着手し、PDCAサイクルを回しながら実効性の高い計画にしてい予定で



総合防災訓練の様子



Voice

東洋アルミニウム株式会社
品質保証部長
渡辺 明夫

ISO9001は、2015年に改正が行われ、品質システムと経営の一体化に重点が置かれました。

これまで順次移行を進めてきましたが、2017年度は全事業所でISO9001:2015年版への移行を完了させます。

品質マネジメントシステムを経営戦略の道具として使いこなし、より良いモノづくりに取り組みます。

CSR重要課題

5

ステークホルダーとの協働



Why? なぜ重要か?

私たちは、持続可能な社会へ貢献するとともにイノベーションを起こし持続可能な事業活動を推進するため、お客さまのみならず、地域社会や行政、NPO、従業員など、あらゆるステークホルダーとの協働を重視した経営を心がけています。ステークホルダーとの対話を積極的に実施することで企業価値を高めていくことを目指します。

Our Approach

アプローチ

私たちは、生産活動や雇用を通して、その地域に大きな影響を与えている生産拠点を中心とした社会貢献活動を行っています。また、自社製品を使用した社会貢献を目的として、学術・アートプロジェクトなどのNPO法人の活動を積極的に支援

しています。他にも、従業員による福祉活動の支援や、福祉団体への製品の提供などを行っています。今後も積極的な取組みを推進し、持続可能な社会へ貢献するとともに、私たちの企業価値を高めていきます。

Our Performance

活動事例

「だいちの星座」へ製品を提供し、次世代育成に貢献

●対象となるステークホルダー > NPO



研究プロジェクト「だいちの星座*」は、地上絵を制作する活動です。人工衛星「だいち2号」から照射される電波を地上で反射させ、町全体に「星座」を描き、その写真を撮影しています。私たちは、反射用の素材として、高平滑アルミ箔「LUXAL®」を含むアルミ箔を無償提供しています。撮影された写真は、「いばらきけんぼく座」と命名され、「茨城県北芸術祭」に出品される作品となりました。この活動を通じて、私たちは次世代育成に貢献します。

だいちの星座*詳細はだいちの星座プロジェクトWebページをご覧ください。
<https://www.daichinoseiza.info/>



だいちの星座
反射器の製作の様子

八尾市・葛城市にふるさと納税返礼品を提供

●対象となるステークホルダー > 行政



私たちが生産拠点を置く大阪府八尾市と奈良県葛城市のふるさと納税返礼品に、東洋アルミグループの製品がラインナップされました。八尾市にはアルミホイルを中心とする日用品セット、葛城市には干渉色アルミ顔料「クロマシャイン®」の扇子を提供し、ふるさと納税された方へのお礼の品として利用されています。



大阪府八尾市返礼品
「家庭用アルミ箔製品セット」

奈良県葛城市返礼品
「クロマシャイン®を使用した扇子」

中学生を対象に 会社見学会を実施

●対象となるステークホルダー > 学生・NPO



2017年3月、東洋アルミニウム(株)大阪オフィスに、修学旅行で訪れた新潟県上越市の中学2年生6名を迎え、会社見学会を行いました。この企画は、NPO法人「学校サポートセンター」のマッチングにより実現したものです。製品紹介や仕事の心構えなどの講習を通じて、学生が民間企業の仕事に触れる機会を提供しました。



会社見学の様子

肇慶東洋 社員旅行を実施し、 従業員のコミュニケーションを促進

●対象となるステークホルダー > 従業員およびその家族



肇慶東洋では従業員同士の積極的なコミュニケーションを促進し、また、従業員を陰で支えるその家族へ会社として感謝の意を表すことを目的に、毎年家族を含めた社員旅行を行っています。2017年は合計165名が参加し、4つのコースの中から各自が選択した観光地を満喫しました。



四川成都・九寨溝コース(五花海等の自然景観)参加者による記念撮影



Voice

だいちの星座研究代表者
金沢美術工芸大学
准教授

鈴木 浩之氏(右)

だいちの星座研究分担者
宇宙航空研究開発機構
研究開発員

大木 真人氏(左)

約77万人が入場し話題となった茨城県北芸術祭で、地元の参加者らとともに人工衛星と電波反射器を利用した地上絵の制作を行い、電波を地上で反射する器具の反射面の材料として東洋アルミニウム株式会社様からご提供いただいたアルミ箔が大活躍いたしました。常陸大宮市の会場では、鏡面状の美しいアルミ箔を使って、精巧な電波反射器が手作りされ、子どもたちとともに宇宙へ馳せる思いを一層引き出してくれました。これらの電波反射器は地球観測衛星「だいち2号」によって宇宙から観測され、50km四方の巨大な地上絵が完成し展示されました。あらためて活動のご支援に深く感謝申し上げます。

茅ヶ崎製造所・湘南矢畑製造所で TABLE FOR TWOに参加

●対象となるステークホルダー > NPO



TABLE FOR TWOとは、対象となる定食や食品を購入すると、1食につき20円が開発途上国の学校給食のために寄付される活動*です。茅ヶ崎製造所および湘南矢畑製造所では、対象となる自動販売機を設置し、この活動に参加しています。従業員一人ひとりが気軽に参加でき、開発途上国の子どもたちの健やかな成長に役立つ活動として今後も継続していきます。

*NPO法人「TABLE FOR TWO International」による。20円で開発途上国における1食分の給食費となります



湘南矢畑製造所に設置している
TABLE FOR TWO対象の
自動販売機

東洋アルミエコープロダクツ株式会社 福祉団体などに製品を寄付

●対象となるステークホルダー > NPO



東洋アルミエコープロダクツ(株)は、NPO法人「フードバンク関西」とのアライアンスにより、取り扱い製品の1つである使い捨て食品容器を近畿圏内の福祉団体・児童養護施設など7カ所に寄付しました。

これは、同社の長期在庫の有効活用の一環として行われたものです。在庫の回転率を向上させるとともに、製品を通じて地域へ貢献することができました。



ホームレス支援団体による炊き出しに
カレーライスの容器として活用

コーポレート・ガバナンス



東洋アルミグループでは2010年に東洋アルミグループ経営理念 ハンドブックを全従業員に配付しました。ハンドブックを全従業員が携帯することで、経営理念や行動方針をより明確に示し、従業員の行動の指針となるようにしています。

また、CSR基本方針、CSR行動憲章なども掲載し、CSR体制を構築するよう努めています。

さらに、2016年度は、監督機能を強化することを目的に、取締役会の開催を隔月から毎月へ変更し、また社外役員を増員しました。2016年度に引き続き2017年度も、東洋アルミ全部門とグループ会社を対象に、コーポレート・ガバナンスの強化を目的とした内部監査を実施します。

内部統制システム

東洋アルミグループでは、金融商品取引法に基づく「適正な財務報告を作成する」ためのプロセスを構築するとともに、会社法に基づく「リスク管理」や「独占禁止法」などの法令遵守姿勢を明確にし、監査・見直し・改善を進めながら、グループ会社全体の内部統制システムの充実を図っています。

リスクマネジメント

東洋アルミグループでは、「グループ・リスク管理規則」に基づいて、グループにおけるリスク管理に関する基本的事項を定め、事業を取り巻くさまざまなリスクに対して、事業戦略と調和した的確な管理・実践を通じ、企業価値の持続的向上を目的に活動を展開しています。

各社個別の取組みに加えて、東洋アルミグループとして総合的な管理が必要な9つのリスクを「重点対策リスク(右表参照)」とし、それぞれ担当部門を定め、リスク管理を推進しています。

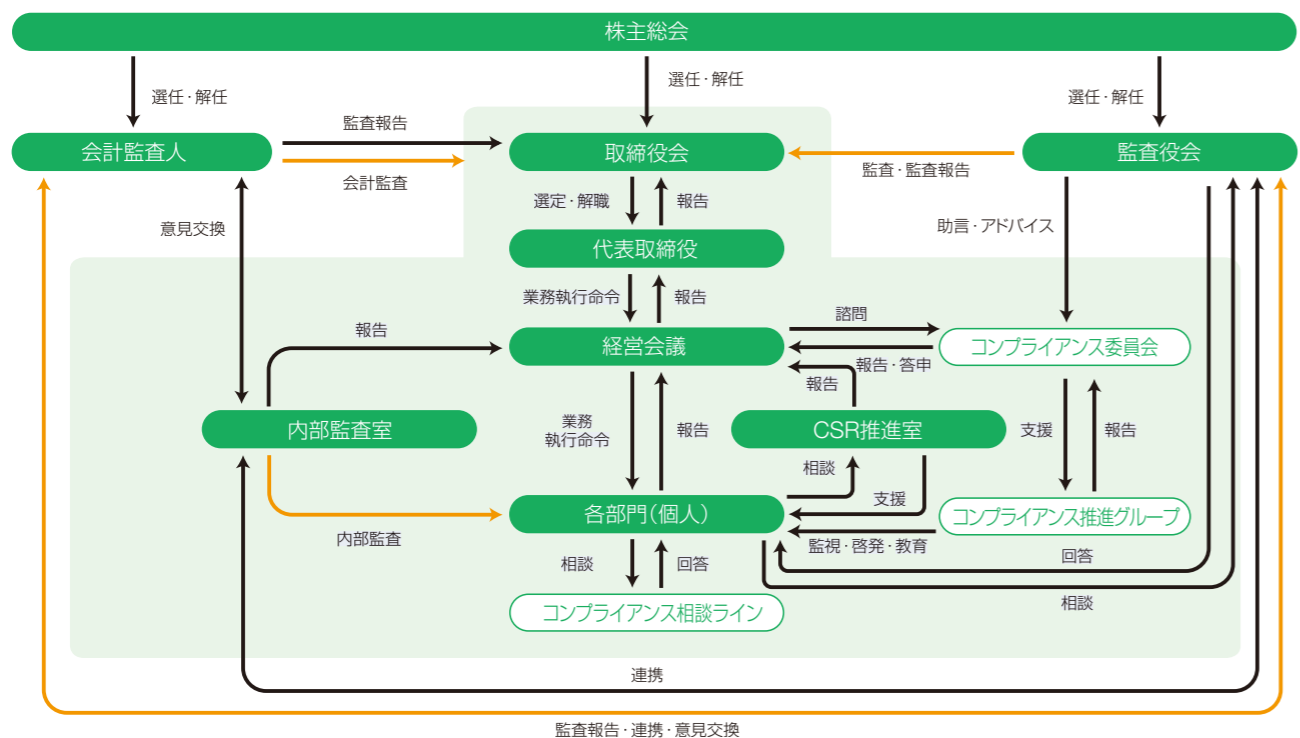
東洋アルミ代表取締役社長をグループ全体の最高責任者とし、東洋アルミ取締役およびグループ会社代表取締役社長は、リスク管理責任者として担当する部門・会社におけるリスク管理について指導・統括する責任を負います。

この「重点対策リスク」については、内部監査室が担当部門に対し総合的な監査を半期ごとに行い、その結果を経営会議に報告します。経営会議メンバーは、リスク管理責任者に対し必要な助言を行い、特に取組みが不足しているリスク管理については、是正措置などの検討を指導します。

重点対策リスク

- (1) 製品・サービスの欠陥
- (2) 環境問題
- (3) 自然災害・事故災害
- (4) 安全・衛生問題
- (5) 情報システム問題
- (6) 企業・個人機密流出
- (7) 適時情報開示の懈怠
- (8) 安全保障貿易管理
- (9) 海外危機管理

コーポレート・ガバナンス体制



東洋アルミグループは、2015年度・2016年度の2カ年、ISO26000の7つの中核主題に沿ったCSR活動を推進してきました。アクションプランを作成し、KPI(重要業績評価指標)を明確にした上で取組みを推進しています。

2016年度のアクションプランについて、その内容および実施した評価を以下の表に示します。

2017年度以降は、「東洋アルミグループのサステナブル経営」で報告した通り、SDG Compassにのっった活動を展開予定です。

2016年度アクションプラン

CSR重要課題	項目	2016年度	
		重点活動計画	評価
組織統治	BCP(事業継続計画)	●方向性の確立、スケジュール化	○
	コミュニケーション	●CSR報告書の構成見直しと発行	○
	CSRの啓発	●社内勉強会実施、季報の充実	○
人権	相談窓口	●適切な対応と是正強化	○
	基本的人権の尊重の啓発	●啓発活動	○
労働慣行 (安全衛生推進、 危機管理、 AKS活動)	安全監査	●全事業所実施と海外関連会社も含めた確実なフォロー	○
	社長ハトロール	●ヒューマンエラー防止とリスクアセスメント活動を柱に社長ハトロールを実施	△
	安全成績	●重大災害対策・火災対策・リスクアセスメント活動の推進	△
	安全管理システム(OHSAS)に準拠	●システムの大枠作成	△
	防災訓練	●図上訓練と合同防災訓練の実施	△
	防災マニュアル	●オフィス版の見直し完了と各事業所のマニュアル整備	△
	安全活動発表大会	●職場単位から事業所単位へ評価方法を見直し	○
	安全研修	●現場向けのヒューマンエラー対策、体感訓練の実施	○
	安全予算	●タイムリーな実施のフォロー	○
	海外安全	●ニュース配信 休日を除く毎日配信、配信先と配信方法の検討	△
AKS活動	●訓練の標準化	○	
	●海外安全セミナーの継続	○	
環境 (環境調和)	●AKS講演会の計画的実施	○	
	●生活習慣改善プログラムの推進(ベストプラクティスの水平展開)	△	
	●ストレスチェックの実施	○	
環境監査	●予定した事業所への実施と海外関連会社も含めた確実なフォロー	○	
エネルギー使用量の削減(原単位で1%の改善目標)	●エネルギー使用量の見える化と改善活動による削減	×	
産業廃棄物の削減(原単位で2%の改善目標)	●各事業所で産廃削減活動の見える化、廃棄物分別の啓発と実施	×	
環境トラブル(事故、異常、苦情)ゼロ	●過去の事故対策のレビューと横展開	×	
ISO14001:2015年版への移行	●各事業所移行審査時期の確認と実施フォロー	○	
改正された法令への対応	●改正された法令(水銀関係法令改正など)への対応	○	
コンプライアンス活動の推進	●コンプライアンス推進PDCAサイクルの継続	○	
コンプライアンス推進グループ体制の強化	●事業所コンプライアンス推進グループの体制強化	○	
独占禁止法・下請法関連リスクの対応	●独占禁止法・下請法遵守を目的とした教育啓発	○	
コンプライアンス・ミーティングの充実	●ハラスメントを統一テーマとしたミーティングを継続的に実施	○	
法規制のフォローと教育	●化学品のリスクアセスメント活動の実施	○	
安全保障貿易管理	●輸出審査委員会、輸出審査小委員会の実施	○	
情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の定期教育	●教育内容の充実と確実な人財育成	○	
ISMSの内部監査	●検出からは正完了までのフォロー実施	○	
ISMSのグループ会社へのシステム拡大	●湘南矢畑製造所へのシステム拡大	○	
ISMS 組織体制の見直し	●社内展開実施(全事業所のISMS管理責任者および事務局との情報共有)	○	
消費者課題 (品質保証)	品質監査	●予定した事業所への実施と確実なフォロー(海外関連会社展開の準備)	○
	品質審査会議	●規程にのっとり漏れなく実施	○
	合同QC事例発表会	●実施の継続	○
ISO9001:2015年版への移行	●各事業所移行審査時期の確認と実施フォロー	○	
(公財)軽金属学会の活動支援	●(公財)軽金属学会の活動支援	○	
地域貢献活動の実施	●各事業所による地域貢献活動(清掃、献血など)の実施	○	
地域社会イベントへの参加	●各事業所にて地域社会イベントへ参加	○	

備考：評価欄においては ○=達成 △=一部未達成 ×=未達成 を表します



明治大学 経営学部 特任准教授 および
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR室 シニアアドバイザー
関 正雄 氏

東洋アルミグループは、今年の報告書で「未来を創る」をキーワードに昨年の報告書をさらに進化させ、未来志向でCSRを経営に一体化することへの経営のコミットを会長・社長自らにより鮮明に打ちだしています。

CSRを事業戦略に組み込む第一歩を踏み出した前年度の報告書と比べて、マテリアリティを特定し、かつSDGsとリンクさせるなどこの一年で一段と取り組みが進化していることが読み取れます。

評価すべき点

- 会長対談のなかで、CSR推進における「人の育成」や「基本的姿勢」の重要性を強調していること。トップの責任と従業員の力のいずれも重要と考え、形だけでなく魂を込めた内発的なCSRをめざしていること。
- 社長対談では、長期的視点にたつて社会的価値創出と企業価値向上の両立をめざすことを強調していること。CSRを事業に統合する経営者としての強い意志を明確に読み取ることができる。
- 初めて5つのマテリアリティ特定にチャレンジし、その第一に未来を創るイノベーションを掲げるなど、事業を通じたSDGsへの貢献を優先課題に掲げて経営に組み込む姿勢を明確にしていること。
- BtoBの素材産業がどのような形で持続可能な社会に貢献していくのか、一般的には見えにくい点をわかりやすく特集で

伝えようと努力していること。新たなインスピレーションを社内でも生み出すうえでも、効果的な特集といえる。

改善すべき点および推奨事項

- ステークホルダー・ダイアログは今後も継続・内容を充実させるとともに、透明性を高めてそのプロセスや出た意見をより具体的に開示すること。
- 重要課題1に関する特集「未来を創るイノベーション」では、優れた技術が紹介されよい試みだと思いが、それが社会にどれほどのインパクトを生んでいるのか、あるいは今後生む可能性があるのかがよりイメージできるよう、もうひと工夫が必要。
- マテリアリティ特定の次のステップとして、今後は、KPIの設定に進んでほしい。「未来を創る」というビジョン実現のためには、温室効果ガス削減をはじめ、目標は単年度だけでなく中長期でも設定することが求められる。
- 従業員全員参加型で企業の「ありたい姿」を決めていくとあるが、その際にはこのCSRレポート2017も対話ツールとして活用し、対話の過程から生まれる気づきも大切にしてほしい。

おわりに

以上、今年のCSRレポートで明確に打ち出した「未来を創る」という方向性で、ブレることなくCSRの経営への統合への努力をたゆまず、着実に進めていただきたいと思います。

関特任准教授より「東洋アルミグループCSR REPORT 2017」に対して大変有益なご意見と弊社のCSR活動が今後目指すべき方向を示唆頂き、厚く御礼申し上げます。
昨年度から従来型の「守りのCSR活動」に加えて、「攻めのCSR活動」への進化を図るべく「未来を創る」をコンセプトに中長期的な視点で活動をスタート致しました。
今後はSDG Compassの指針ののっとり、東洋アルミグループの特性・強みを活かしたマテリアリティの特定やKPIの設定など、前向きに取り組む、持続可能な社会に少しでも貢献できるように努めてまいります。

**第三者意見を
受けて**

常務執行役員
CSR推進室統轄
吉田 昌弘



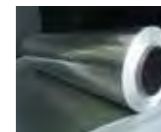
事業概要

- **社名**
東洋アルミニウム株式会社
- **代表取締役社長**
山本 博
- **本社所在地**
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号 御堂筋ダイワビル
- **設立**
1999年5月12日
(旧東洋アルミニウム株式会社は1931年4月7日設立)
- **資本金**
80億円
- **従業員 (2017年3月末現在)**
(連結) 2,517名
(単体) 1,459名
- **株主**
日本軽金属ホールディングス株式会社 100%

● 主な事業内容

箔事業

独自の技術とノウハウをもとに独創的なアルミ箔製品を開発・提供しています。また、軽く高性能なアルミ箔の特性を活かして、未来の分野へ高機能・高性能素材の提案を進めています。



パウダー・ペースト事業

アルミペーストは、意匠面・機能面の向上に注力した開発を進めています。また、アルミニウム粉末およびその応用製品の提供を通じて、化学品/電子材料/自動車/航空宇宙分野の発展に貢献しています。



ソーラー事業

太陽電池をはじめとする地球環境保全関連分野およびその成長分野に特化した体制を整えています。中国を中心とした海外の太陽光発電ビジネスを注視し、独自技術の製品を提案していきます。

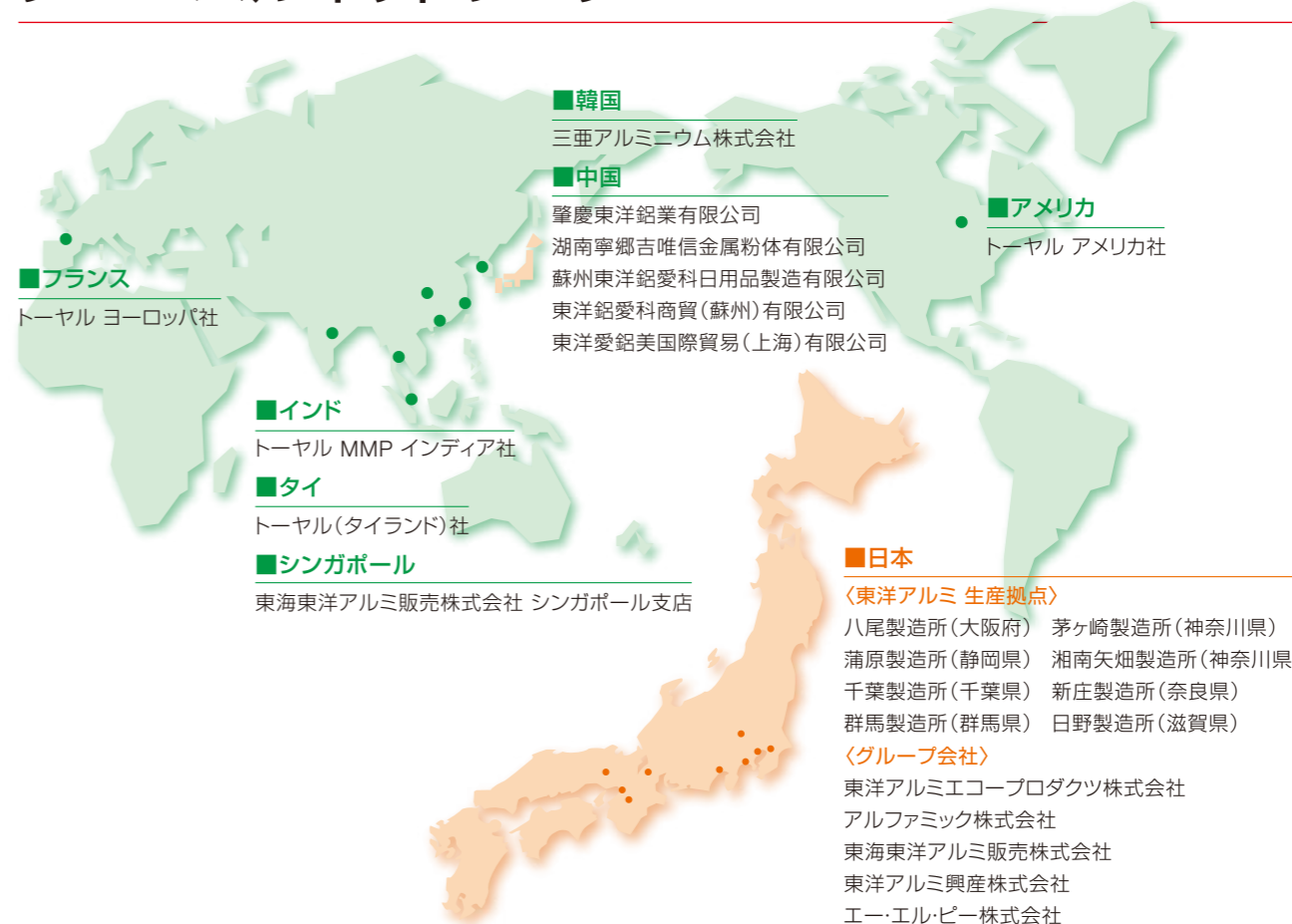


日用品事業

暮らしを知り尽くしたマーケティング力と素材を知り尽くした生産技術力が強固な基盤となっています。生活に身近な家庭用品や食品用のアルミ箔容器、紙製のパッケージ用品の製造・販売を行っています。



グローバルネットワーク





東洋アルミニウム株式会社

<http://www.toyal.co.jp/>

大阪オフィス

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目6番8号(御堂筋ダイワビル)
TEL(06)-6271-3151 (代表)

東京オフィス

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号(天王洲郵船ビル)
TEL(03)-5461-0711 (代表)



この印刷物から発生するCO₂は
カーボンフリーコンサルティング株式会社を
通じてオフセットされています。